

2015年度「国際常民文化研究機構」(A)共同研究(奨励) 申請書
(文部科学省 共同利用・共同研究拠点)

研究課題名		アチック・ミュージアムの調査活動に関する基礎研究 —「隠岐」調査の検証・分析と民俗学的考察—	
申請者氏名 (研究代表者)		(ふりがな) こばやし こういちろう 小林 光一郎	所属機関 職 専門分野 神奈川大学日本常民文化研究所 特別研究員 日本民俗学
研 究 組 織	氏名	所属機関・職・専門分野	分担課題
	小林 光一郎	神奈川大学日本常民文化研究所 特別研究員・日本民俗学	アチック写真・アチックフィルムと現在の 景観や民俗事象との照合。アチックの 調査に関わる民俗学的事象の分析。照 合作業等における論考、隠岐における 民俗とアチックにおける調査についての 論考。
	羽毛田 智幸	横浜市歴史博物館 学芸員・日本民俗学	アチック写真・アチックフィルムと現在の 景観や撮影地・調査行程等確認ならび に照合。アチック写真・アチックの調査 に関わる民俗学的事象の分析。照合作 業等における論考。
	永井 美穂	渋沢史料館 学芸員・日本民俗学	アチック写真・アチックフィルム・渋沢史 料館所蔵映像資料と現在の景観や民 俗事象との照合。アチック写真・アチック の調査に関わる民俗学的事象の分析。 照合作業等における論考。
	櫻村 賢二	鳥取県立公文書館県史編さん室 専門員・日本民俗学	アチック写真・アチックフィルム・調査報 告等における隠岐と境港周辺との関わ りにおける民俗学的考察・分析、論考。
	木村 裕樹	龍谷大学 非常勤講師・日本民俗学	アチック写真・アチックフィルム・調査報 告等における民具資料の同定ならびに 分析。照合作業等における論考。

研究目的と期待される成果	<p>本研究は、アチック・ミュージアム(以下、アチック)並びにその主催者であった渋沢敬三(以下、敬三)に関する研究を行っている研究者による、アチック・ミュージアムの調査活動やそれらによって得られた諸資料およびアチック同人に関する情報の蓄積とアチックの実態の追求を主眼とした基礎研究を行うものである。これまで、アチックにおける研究史としては2013年度の敬三没後50年を記念した「渋沢敬三記念事業」においてある一定の成果が出たといえる情勢にはあるが、アチックの調査の検証が行われているとはいえない状況であり、これらアチックの調査や研究の検証は民俗学や民具研究、漁業史研究といったアチックが関わってきた研究の研究史として急務であり必須である。</p> <p>研究目的は、次の2つに主眼を置いている。まず、アチックで行われた調査を研究単位とし、調査がどのような理由で、どのような方法で、どのような結果だったのか、実態の解明を目的としている。さらに、アチック内への結果的な影響やその後の同人たちの研究に与えた影響などの研究史的考察のみならず、調査対象地である隠岐における調査当時の状況から現在における経年変化の記録化、調査当時と現行の民俗事象の考察など、隠岐やその周辺の領域における民俗も研究対象とした考察までも視野に研究を行うものである。</p> <p>具体的な研究対象は昭和9年5月に敬三はじめアチック同人とされる研究者によって行われた「隠岐調査(第一次)」と、昭和10年8月に桜田勝徳や山口和雄、岩倉市郎によって行われた「隠岐調査(第二次)」で、地域としてはアチックの調査地・隠岐ならびに境港や島根半島の一部も含むものとする。</p> <p>研究方法は、各研究機関に引き継がれたアチックに関する諸資料、なかでもすでに常民研にて刊行された『アチック写真vol.6』をテキストとして、「隠岐」調査の総合的な検証を行う。具体的な研究対象の資料としては神奈川大学日本常民文化研究所(以下、常民研)所蔵資料(アチック写真やアチック・フィルム、彙報や研究ノート等)や宮本記念財団所蔵資料(写真資料や映像資料等)、渋沢史料館所蔵資料(映像資料等)、国立民族学博物館所蔵資料(アチック時代に収集された民具資料等)を基に調査の検証・分析を行う。</p> <p>本研究によって期待される成果としては、アチックの隠岐調査に関する写真や映像・民具を網羅した総合的な資料編に加えて、論文編を計画し、本研究に関わる人員各員の新たな知見での論考を提出する。本研究に関わる人員は、前述した『アチック写真vol.6』の写真・映像の整理・目録化を行った小林・羽毛田をはじめ、アチック・敬三が関わったと考えられる映像を所蔵する渋沢史料館の永井(渋沢史料館にて当該映像資料担当者)、神奈川大学21世紀COEプログラムにおいてアチック写真の整理に関わり、調査地域である隠岐との生業的關係や経済圏である「中海」の調査を、神奈川大学日本常民文化研究所調査報告(常民文化奨励研究 調査報告書)『第21集 有明海及び中海の里海としての利用慣行』にて行った樫村(また、鳥取県史編さん室専門員であり、中国地方の民俗に詳しい)、国立民族学博物館において故近藤雅樹とともに所蔵民具の整理を行った木村(アチック同人である高橋文太郎研究者でもある)といった本研究における適任者であり、論文編にて新たな発見が期待できるものであり、資料編でも民俗学・歴史学の先行研究の検証として基礎的なデータを残せるものと考えられる。</p>
研究計画(年次別)	<p>★年次ごとに研究計画と予算の関係が分かるように具体的に書いてください。</p> <p>●平成27年度</p> <p>①第一回研究会、資料調査 本研究における計画や研究の確認ならびに諸基礎資料調査として神奈川大学日本常民文化研究所・渋沢史料館等における資料調査(都内2名、静岡県1名、大阪府1名、鳥取県1名)</p> <p>②資料調査 宮本記念財団における関係資料調査(都内2名)</p> <p>③現地調査 隠岐における現地調査(一回目) 初回となる今回は飛行機による移動が可能な隠岐島後地域の調査を予定(都内2名、静岡県1名、大阪府1名、鳥取県1名)</p> <p>④第二回研究会 一回目の現地調査を終えての確認や課題等を研究グループ内にて中間報告を行う(現地調査において生じるであろう不備資料の拡充や次回現地調査における準備含む)(都内2名、静岡県1名、大阪府1名、鳥取県1名)</p> <p>⑤資料調査 国立民族学博物館における資料調査 同館所蔵の民具資料の確認と照合(都内2名、静岡県1名、大阪府1名、鳥取県1名)</p> <p>●平成28年度</p> <p>①現地調査 隠岐における現地調査(二回目) 前回調査を行わなかった島前地域の調査を予定。また境港から船にて同島に渡航を予定し、それに関連して境港における調査も実施予定(都内2名、静岡県1名、大阪府1名、鳥取県1名)</p> <p>②第三回研究会 これまでの現地調査ならびに資料調査を終えての確認や課題等を研究グループ内にて報告を行う(都内2名、静岡県1名、大阪府1名、鳥取県1名)</p> <p>③現地補足調査 過去二回に亘る現地調査の補足と島根半島地域の現地調査(都内2名、静岡県1名、大阪府1名、鳥取県1名)</p>